

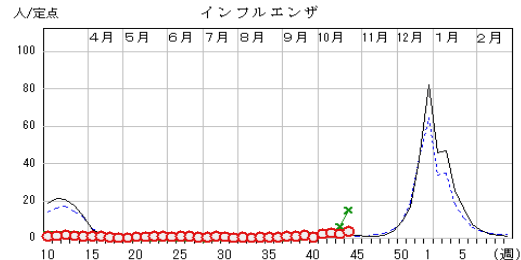
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第44週 2025年10月27日（月）～2025年11月2日（日）2025年11月6日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

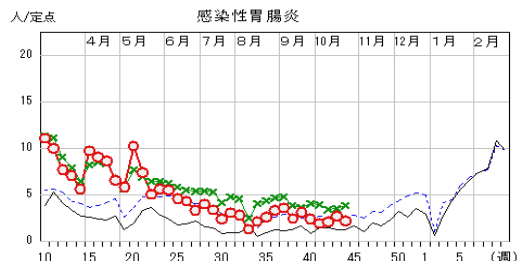
（1）インフルエンザ

第44週の報告数は180人で、前週より66人多く、定点当たりの報告数は3.53であった。
年齢別では、10～19歳（97人）、10歳未満（68人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（9.29）、県北保健所（7.67）であった。



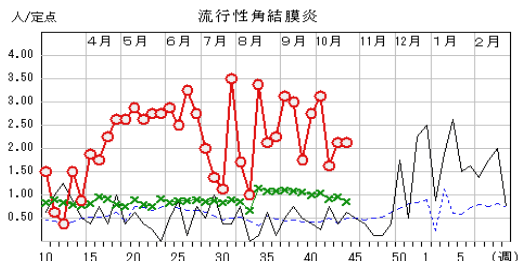
（2）感染性胃腸炎

第44週の報告数は67人で、前週より16人少なく、定点当たりの報告数は2.16であった。
年齢別では、10～14歳（13人）、1歳（12人）、9歳（8人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（11.00）であった。



（3）流行性角結膜炎

第44週の報告数は前週と同じ17人で、定点当たりの報告数は2.13であった。
年齢別では、60～69歳（4人）、30～39歳（3人）、40～49歳（3人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（10.00）であった。



○ 当年（長崎県） 前年（長崎県）
× 当年（全国） 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第44週の報告数は180人で、定点当たりの報告数は3.53となりました。地区別にみると、佐世保地区（9.29）、県北地区（7.67）は、他の地区に比べて多くなっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第44週の報告数は67人で、定点当たりの報告数は2.16でした。地区別にみると、県北地区（11.00）は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【流行性角結膜炎】

第44週の報告数は17人で、定点当たりの報告数は2.13でした。地区別にみると、県南地区（10.00）は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

★トピックス：インフルエンザを予防しましょう

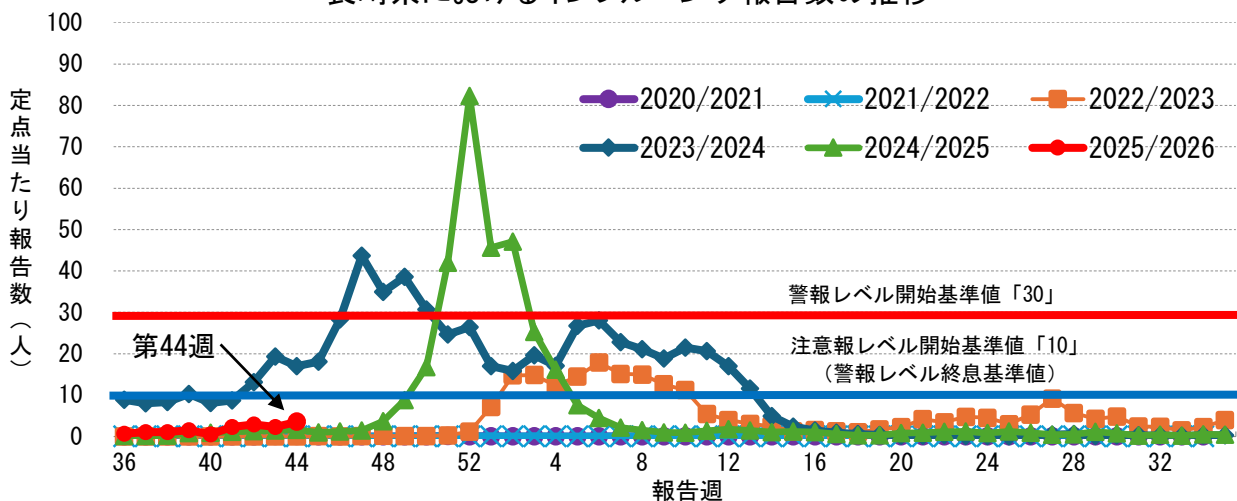
長崎県の第44週の患者報告数は180人で、定点当たり報告数は「3.53」でした。県全体では、第37週に流行の目安である「1.0」を超え、流行期入りしています。

今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

（参考）長崎県感染症情報センター 「インフルエンザ」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansen-c/influenza-kansen-c/685285.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



★トピックス：11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに拡げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

（参考）AMR臨床リファレンスセンター：AMR対策推進月間キャンペーンサイト

<https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2025.html>

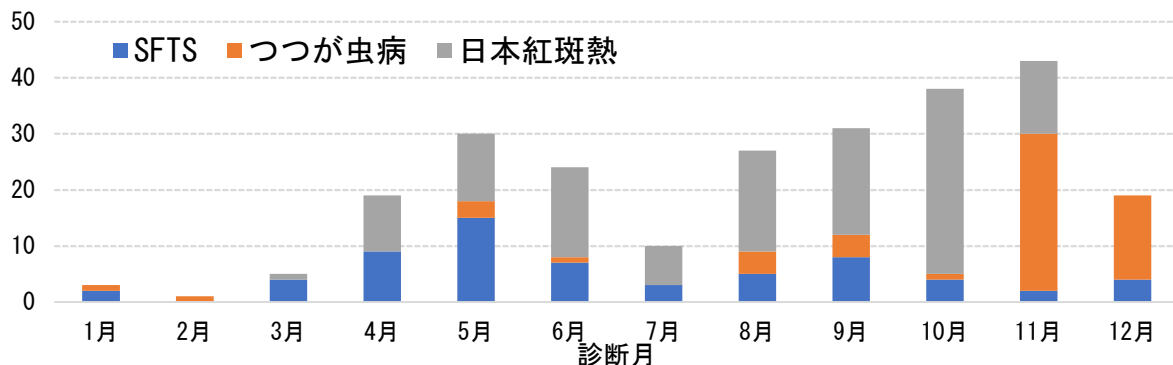
☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第44週までに、SFTS12件、日本紅斑熱23件が報告されています。

過去5年の県内の発生状況をみると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病の報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

(件) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	6 (6)	6 (6)	13 (12)	13 (10)	13 (12)	12
日本紅斑熱	18 (17)	28 (28)	22 (21)	14 (13)	23 (19)	23
つつが虫病	11 (2)	14 (5)	7 (1)	15 (6)	11 (3)	0

※()は第44週までの発生件数

☆トピックス：11月は「長崎県感染症対策強化月間」です

長崎県は、県民の感染症対策に対する理解・協力を促進するため、今年度から11月を「長崎県感染症対策強化月間」と設定しました。

「感染症」とは、病気を引き起こす小さな生物（病原体）が体に侵入して症状が出る病気のことです。病原体は細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類されます。病原体の性質により、接触感染、空気感染、飛沫感染などの感染経路があります。

いずれの感染症においても、手洗い、換気、マスク着用等の咳エチケットといった基本的な感染症対策が有効です。加えて、一部の感染症においては、発症や重症化に一定程度予防効果のあるワクチンもあります。正しい知識を身につけて、感染対策を心がけましょう。また、新しい感染症の流行に備えて、日頃から準備をしておきましょう。

☆感染症流行への備え（内閣感染症危機管理統括庁ページより抜粋）

- ・食料品や衛生用品（マスク、手指消毒剤など）、生活必需品を少し多めに準備しておく
- ・家庭で、学校、保育園等の休業への対応を事前に話し合っておく
- ・職場で、日頃からオンライン会議やテレワークの準備をしておく

（参考）内閣感染症危機管理統括庁

- ・感染症の基礎知識

<https://www.caicm.go.jp/knowledge/index.html>

- ・基本的感染対策

https://www.caicm.go.jp/houdou/documents/files/infection_prevention.pdf

- ・次の感染症危機に備えましょう

https://www.caicm.go.jp/houdou/documents/files/crisis_preparedness.pdf

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（60代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（80代以上・1名）

5類感染症：急性脳炎 患者 男性（70代・1名）

百日咳 患者 男性（10歳未満・1名、40代・1名、60代・1名） 女性（70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況

(第39～44週、9/22～11/2)

疾患名	定点当たり患者数					
	39週	40週	41週	42週	43週	44週
	9/22～	9/29～	10/6～	10/13～	10/20～	10/27～
インフルエンザ	1.51	0.49	2.29	2.86	2.24	3.53
新型コロナウイルス感染症	8.76	7.57	4.92	2.36	1.39	1.16
RSウイルス感染症	2.19	1.35	1.71	1.39	1.35	0.68
咽頭結膜熱	0.29	0.52	0.52	0.35	0.84	0.65
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.39	1.29	2.19	1.13	1.48	1.48
感染性胃腸炎	3.13	2.42	1.94	2.10	2.68	2.16
水痘	0.29	0.23	0.32	0.06	0.10	0.03
手足口病	0.16	0.13	0.10	0.13	0.16	0.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	3.52	3.03	3.29	2.81	1.90	2.03
突発性発しん	0.39	0.29	0.32	0.32	0.16	0.39
ヘルパンギーナ	0.19	0.03		0.06		0.03
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.10		0.03	0.03	0.06	0.03
急性出血性結膜炎				0.13	0.13	
流行性角結膜炎	1.75	2.75	3.13	1.63	2.13	2.13
細菌性髄膜炎		0.08		0.08		
無菌性髄膜炎	0.17		0.25	0.08	0.42	0.08
マイコプラズマ肺炎	1.17	0.58	1.33	1.33	1.33	1.42
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	65.16	63.45	64.18	55.04	56.69	68.65

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況

(第44週、10/27～11/2) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	3.53	9.29	4.09	2.33	1.40	2.25	0.60	7.67	3.33		0.67
新型コロナウイルス感染症	1.16	1.00	1.27	2.33	1.40	0.38	3.00	1.33			0.67
RSウイルス感染症	0.68	1.25	1.00		1.00	1.00	0.33	0.50			
咽頭結膜熱	0.65	0.25	0.33		0.33		1.00	6.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.48	3.25	0.83		1.67	0.40	5.00	1.00	0.50		1.50
感染性胃腸炎	2.16	4.75	0.50	0.50	3.67	2.20		11.00			
水痘	0.03							0.50			
手足口病	0.23		0.67		0.33	0.40					
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.03	4.50	0.67		2.67	2.20	2.33	3.50	3.50		0.50
突発性発しん	0.39	0.25	0.67			0.80	0.33			1.00	
ヘルパンギーナ	0.03										0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.25									
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	2.13	1.00	1.00		1.00	2.00	10.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08					1.00					
マイコプラズマ肺炎	1.42	4.00	3.00	1.00			1.00	1.00			1.00
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	68.65	71.14	120.27	36.33	89.60	94.13	26.00	32.33	3.67	14.33	29.67